



年のハロウィンパーティー様子(南門シルクロード会供)

学校が多く、仮装した地元の親子連れらで例年にぎわいをみせる。

31日までの期間中、参加店舗がハロウィーンの装飾で街全体のムードを盛り上げる。同日午後4時からの本イベントでは、仮装した来場者に参加店舗からプレゼントが贈られる。さあ、みんなで「トリック オア トリート！」(鈴木 崇宏)

横浜 みなと 新聞

No.116

◆神奈川新聞横浜みなと支局
横浜市中区海岸通1-1-4

✉yokohama-minato@kanagawa-np.co.jp

幕末の歴史をめぐり、神奈川台場に行ってみよう

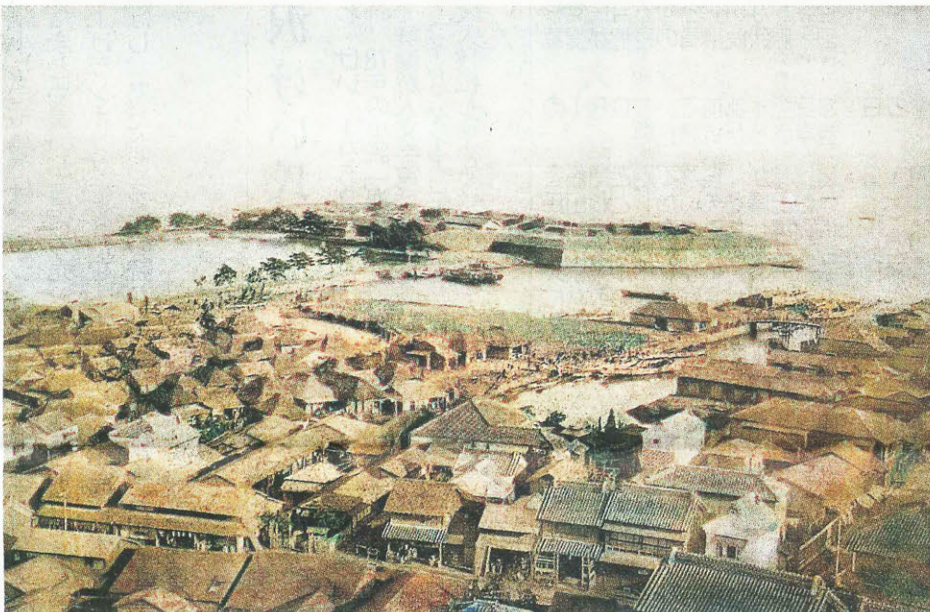


①「神奈川台場物語」を寄贈する山本さん(左から2人目)と執筆した西川さん(同4人目)ら
=9月25日、横浜市神奈川区の市立幸ヶ谷小学校
②「神奈川台場物語」の街歩き地図



神奈川台場 地元住民ら冊子作製

眠る歴史 未来へつなぐ



①明治期の神奈川台場(山本博士さん所蔵)
②星野町公園に残る神奈川台場跡
=横浜市神奈川区

横浜開港直後の1860年に竣工し、横浜港に入港する外国船に祝砲や礼砲を撃つことで外交儀礼を果たした神奈川台場(横浜市神奈川区)。地下に眠る土木遺構の歴史を後世に語り伝えようと、地元住民らでつくる団体が冊子を作製した。子どもたちに配布し、横浜の重要施設だったことを示す史跡として未来に残つてゆくことを期待している。(三木 崇)

江戸幕府は59年に伊予松山藩に命じ、勝海舟の設計で台場(砲台)を神奈川宿の沖合に構築した。翌年に完成した台場は総面積約2万6千平方メートルに達し、海に突き出た扇形で、現在のJR貨物線東高島駅の周囲にあたる。横浜港発祥の地にある象の鼻(同市中区)とともに国際港として重要な役割を担った。71年に岩倉具視を全権大使とした使節団が象の鼻から欧米に派遣された際にも台場から祝砲を放った記録が残されている。

99年に外国人居留地が廃止されるまで台場として使われていたが、1921年ごろから埋め立てられた。現在は整備工事によって星野町公園などで石垣の一部を見ることができ、ほとんどの遺構は地下に眠ったまま。一方で、周辺では新たな開発の波が押し寄せつつあるという。

そうした歴史を子どもたちに知ってもらうようと、地域住民らでつくる公益社団法人「神奈川台場地域活性化推進協会」は9月に冊子「神奈川台場物語」を発行。横浜開港資料館の西川武臣館長が執筆に加わり、市ふるさと歴史財団が監修した。

同協会の理事長を務める山本博士さんは、台場が一度も攻撃のために大砲を放つことがなかったことに注目。「開港前は小さな漁村だった横浜が、国内有数の国際港へと平和裏に導いた歴史の象徴」と力を込める。西川館長は「関東大震災で多くの建造物がなくなつてしまつた中、土の中に残された遺跡は非常に数少なく貴重」と文化財としての価値を強調している。

9月25日には、地元・神奈川区の市立幸ヶ谷小学校の6年生全員に冊子を寄贈。神奈川、西、中の各区の公立小37校の6年生全員に約3300冊を配布する予定で、竣工から160年目となる2020年までに合計約1万冊を寄贈する計画だ。

山本さんは「神奈川台場を知らない地元の子もたは多い。将来も台場の遺構を保存していくための担い手を育ててゆきたい」と話している。